

明和製作所

1

悲愴感か前向きか

目の前にある危機に悲愴感を抱くか、あるいは再生のチャンスとして前向きに行動するかどうかが問われている。明和製作所3代

目社長の生野岳志は、2009年11月の創立50周年記念式典でバラク・オバマ米大統領ほどの熱弁を振るった。「私を含めた経営陣は会社を守り、社員の暮らしを守る覚悟だ。今の危機を

乗り切るため、社員一丸となって知恵を絞り、会社をより立てていこう。げきを飛ばすエネルギーが若きトップに、全社員は魅入られたように聞き入っていた。

同社は電気モーターや減速機、アルミダイカスト製品をカスタム設計、小ロットで製造する。モーターの中でも100〜1キロのAC/DC整流子モーターやメンテナンスフリーのスイッチト・リラクタンス(SR)モーターなどに特化している。

生野が社長に就任したのは06年6月。大病を患い、闘病中だった2代目社長の



経営課題研究し社員を鼓舞

モーター・減速機、カスタム設計



09年11月の創立50周年記念式典で熱弁を振るった3代目社長の生野

生野紘一郎からの再三の要請にこたえての就任だった。紘一郎は岳志の義父にあたる。前職ヤマハでの7年にわたる海外駐在から01年に帰国するまで、「義父の申し出をどう断るか悩んでいた」と懐かしそうに當時を振り返る。

40歳過ぎの覚悟

岳志はもともと「海外で仕事したい」という夢が

あった。86年に旧大阪外国語大学(現大阪大学)外国語学部を卒業後にヤマハに入社。輸入商品の国内マーケティングを担当したのち、念願がなつて94年から01年まで英国に駐在、音響製品の海外営業を担当した。

ただ帰国後に紘一郎の体調が悪化した。明和製作所の後継者はまだ決まっていなかった。多くの従業員とその家族を路頭に迷わせる

わけにはいかない。「海外では自らの裁量で仕事ができた。だが国内では仕事の幅も狭まってくる。それよりも一念発起して、企業経営者として自分の可能性にかけてみるか」。40歳を過ぎた岳志は社業を継ぐ覚悟を固めた。

決断したものの、岳志はすぐに明和製作所に入らなかつた。ヤマハを退職し、企業経営のノウハウを学ぶため、04年9月に立命館アジア太平洋大学(APU、大阪府)大学院経営管理研究科に進学した。「直面する会社の経営課題にどう取り組むべきか」の研究を始めたのだ。05年8月ようやく入社したものの、通学は続けた。福岡県から大分県まで、高速バスで片道2

時間道のりをものともせず、06年3月に修士(経営学修士(MBA))を取得した。

目指したのは、これまで(従業員)としてではなく、監督(経営者)として顧客への付加価値や製品展開を生み出す本質となるコア・コンピタンスを磨く基礎を学ぶことだった。

大学院を修了し、準備は整った。岳志の社長就任から3カ月後、紘一郎は安心したように静かに息を引き取った。(敬称略)

▽所在地 福岡県前原市大字志登130の1、092・3222・3111▽社長 生野岳志氏▽従業員 85人▽資本金 2184万円▽売上高 約7億7599万円(09年3月期)▽URL www.meiwa-s.co.jp